

令和7年度シラバス（国語）

学番 中等1 新潟県立村上中等教育学校

教科(科目)	国語（論理国語）	単位数	2単位	学年（系）	6学年（文系理系共通）
使用教科書	「精選 論理国語」（数研出版）				
副教材等	・『論理国語 学習課題集』（数研出版） ・理解を深める現代文単語 評論・小説 改訂版（桐原書店） ・品詞別 頻出漢字マスター3000（尚文出版） ・共通テスト国語過去問題総合版 令和3～6年（尚文出版） ・共通テスト対策新しい第3の現代文集中完答1（尚文出版）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①幅広い教養を身につけ、他者と協働しながら、粘り強く挑戦し続け、地域社会や国際社会に貢献する意欲や資質・能力を備えた人材を育成します。 ②主体的、自律的な人間として、行動力にあふれ、自他を大切に思いやりの心とリーダーシップを兼ね備えた人材を育成します。 ③主体的に学ぶ力を身に付け、社会における課題等に気づき、創意工夫、試行錯誤を重ね、その解決のために行動できる人材を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、発達段階に応じて1・2年を「基礎の充実」、3・4年を「発展・挑戦」、5・6年を「自律・深化」に分け、学習内容の確かな定着、主体的で対話的な学習態度の育成を図りながら次の教育活動を展開します～ ①総合的な応用力、学問への探究心を育むとともに、知識や技能を活用するための思考力、判断力、表現力を育成する課題解決型の授業を実施します。 ②他者とコミュニケーションを取りながら、地域社会や我が国の魅力を国内外に発信できる知識・技能等を高めるための学習活動を実施します。 ③身に付けた力を社会で発揮するため、地域貢献活動、社会体験活動への参加を推進します。 ④自己肯定感を高め、他者を思いやり、多様性を理解する態度等を育成するため、系統的な特別活動や学年を超えた多様な体験活動を実施します。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

・漢字・語句等の基礎的な語彙力を養い、正確な読解および適切な表現のための能力を高める。 ・論理的な文章の学習を通じて、論の展開や要旨を的確に理解する力を養う。 ・文学的な文章の学習を通じて、登場人物の人物像や心情、作品のテーマを読み取る力を養う。 ・表現の基本的な事項を指導し、自ら適切な表現をすることができる力を高める。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、ことばが持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

5 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊に創造したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、ことばが持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期テスト、小テスト ・ノート、ワークシート、発表内容、意見文、提出物 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期テスト、小テスト ・ノート、ワークシート、発表内容、意見文 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期テスト、小テスト ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物 などから、評価します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時数	評価方法
4	異文化と普遍	読む 3時間 書く 1時間	『文化が違う』とは何を意味するのか？ 岡真理	①「新しい普遍性」という表現に込められた筆者の意図を読み取り、自分の生活と関連づけて考察する。 ②文化相対主義と「文化相対主義」の中身を理解させ、両者の違いをとらえる。 ③日本人とイスラームの人々とはどのような点で違わないのか、まとめる。	4	ワークシート (記述の点検) ワークシート (記述の確認) 発表の様子 (行動の確認)
	情報と知性	読む 2時間 書く 2時間	「生命の知性」 森田真生	①筆者の主張を踏まえて、「生命らしい知性」とは何か考察する。 ②状況に依存した思考とは具体的にどのようなことか説明する。 ③『「状況」を意識した「生命の知性」について筆者の考えをまとめる。	4	ワークシート (記述の点検) ワークシート (記述の確認) 発表の様子 (行動の確認)
5	情報と知性	読む 3時間 書く 4時間	「人と共にある図書館の未来は明るい」 高橋真太郎 「図書館と『ものがたり』」 嶋田学	①「図書館」について書かれた二つの文章の内容について、共通点と相違点を読み取る。 ②文章内容を踏まえて「図書館のあり方」について考察し、自分の考えをまとめる。	7	ワークシート (記述の点検) ワークシート (記述の確認) 発表の様子 (行動の確認)
			定期考査		1	

	6	環境と人間	読む 3時間 書く 2時間	「意志と選択」 國分功一郎	①「意志」と「選択」についての筆者の問題提起と主張をとらえる。 ②意志と選択を混同している例を具体的に考え、まとめる。	5	ワークシート (記述の点検)
	7	環境と人間	読む 5時間 書く 3時間	「エコロジーのミューズを求めて」 今福龍太	①筆者の主張の根拠を、文章の構成や展開を踏まえて読み取り、「エコロジー」について自分の考えを深める。 ②筆者が「真の生態学的認知」と表現する内容を具体的に考え、まとめる。	8	ワークシート (記述の確認) 発表の様子 (行動の確認)
	9			定期考査		1	
	9	思索の深化	読む 5時間 書く 5時間	「無常ということ」 小林秀雄	①「美」や「無常」について筆者はどのようなことを言おうとしているのかを具体例を手がかりにとらえ、考察する。 ②筆者の考える「歴史」と自分の考える「歴史」とを比較しながら、筆者の主張に対する自分の意見をまとめる。	10	ワークシート (記述の点検) 発表の様子 (行動の確認)
	10						
	11	思索の深化	読む 5時間	「顔の所有」 鷲田清一	①論の展開をふまえ、逆説的な表現の内容を説明したり、筆者の主張の根拠をまとめたりする。 ②引用という表現技法の働きを引用以外の文章との関連性からとらえる。	5	ワークシート (記述の点検) 発表の様子 (行動の確認)
		考えの表出	読む 4時間 書く 4時間	「人はなぜ働かなくてはならないのか」 小浜逸郎	①労働を「アイデンティティを承認されるための必須条件」とする筆者の主張を具体的に理解する。 ②「労働」についての自分の考えを根拠とともに論述する。	8	ワークシート (記述の点検) 発表の様子 (行動の確認)
				定期考査		1	
	12	共通テスト対策	3時間 4時間	共通テスト対応 問題集 小論文指導	・総合的な読解演習を行う。	7	
	1	共通テスト 二次試験 対策	6時間	大学過去問プリント	・総合的な読解演習を行う。	6	

2	二次試験 対策	7時間	大学過去問プリント	・総合的な読解演習を行う。	7	
3	二次試験 対策	2時間	大学過去問プリント	・総合的な読解演習を行う。	2	

計 73 時間 (48 分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	B「書くこと」 25 時間	C「読むこと」 48 時間
-----------------	------------------	------------------

※ 増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

7 課題・提出物等

- ・ 読解や意見文などの課題の提出があります。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。(指定図書の読書レポートなど)

8 担当者からの一言

「論理国語」での評論は、現代あるいはそこに生きることにに関する問題を扱っています。筆者の主張を的確に読み取り、それによって自己の考えを深めることが大切です。その上で設問に応じた解答が出せるように練習しましょう。また、副教材で小説も学習します。普遍的なテーマと美しい表現を理解することで自らの文章力に生かしましょう。日頃から読書を心がけ、この時代がどういう時代なのかアンテナを張り巡らせ、情報に敏感であってほしいと思います。

(担当： 齋藤 丈、臼木 妙子)